

## Sun Server X4-4 プロダクトノート

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	5
Sun Server X4-4 モデル命名規則 .....	5
最新のファームウェアとソフトウェアの入手 .....	5
ドキュメントとフィードバック .....	6
このドキュメントについて .....	6
サポートとトレーニング .....	6
寄稿者 .....	7
変更履歴 .....	7
Sun Server X4-4 プロダクトノート .....	9
このリリースでの変更点のサマリー .....	10
サポートされているハードウェア .....	10
サポートされているソフトウェアとファームウェア .....	13
サーバー管理ツール .....	15
ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題 .....	17
電源/OK LED がブート後に点滅から点灯に変化しない (17854057) .....	17
システムの起動後に接続したブート可能な USB デバイスが、ブートデバイスとして認識されない場合がある (17961398) .....	17
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する問題 .....	19
診断の実行中には、その他のサーバー関連のアクションを実行しない (17563508) .....	19
システムの AC 電源の再投入または SP のリセット後のメモリー不足状態メッセージ (17622795) .....	19
Oracle Solaris の問題 .....	21
UEFI ブートモードでの miniroot の pxe ブートが極端に遅い (17458093) .....	21
Desktop Package を含む Solaris 11.1 は Oracle ILOM の特定のオプションを使用して電源をオフにできない (16816951) .....	22
Oracle Solaris 11.1 を Linux iSCSI ターゲットにインストールできない (16274469) .	23
Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Emulex) ポートがオフラインになる (17331148) .....	23

---

Solaris クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して ISO イメージをリダイレクトすると、イメージのマウントに失敗する (18285100) .....	24
Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Qlogic) が取り付けられたサーバーで、Jumpstart を使用した SAN ブートが失敗する (18237680) .....	24
USB 1.0/1.1 デバイスを接続すると、Oracle Solaris が <code>fault.io.usb.not_acc</code> を生成する (17785011) .....	25
Oracle VM の問題 .....	27
dhclient コマンドでシステムがパニックを起こす (16596993) .....	27
ethtool が速度とデュプレックスを不明として表示する (16563881) .....	28
大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM 3.2.7 サーバーをインストールしたあとのエラー (16557272) .....	28
Linux の問題 .....	31
Intel_Idle ドライバでの C ステートのパフォーマンスの問題 (16873953) .....	31
VMware ESXi の問題 .....	33
VMware ESXi 5.5 が 4G バイトを超える MMIO リージョンをサポートしない (16480679) .....	33
VMware ESXi 5.5 で PCIe カードの割り込みが不足する (16494653) .....	34
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手 .....	35
ファームウェアとソフトウェアの更新 .....	35
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション .....	36
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ .....	36
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス .....	38
物理メディアのリクエスト .....	39
更新のインストール .....	42

# このドキュメントの使用方法

---

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Server X4-4 モデル命名規則」
- 5 ページの「最新のファームウェアとソフトウェアの入手」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「サポートとトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

## Sun Server X4-4 モデル命名規則

Sun Server X4-4 という名前の意味は次のとおりです。

- X は、x86 製品であることを意味します。
- 最初の数字 4 は、サーバーの世代を意味します。
- 2 番目の数字、4 は、サーバー内のプロセッサソケットの数を意味します。

## 最新のファームウェアとソフトウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、工場出荷時にインストールされる Sun Oracle x86 サーバー向けのオプションです。これには必要なすべてのツールとドライバが含まれており、内蔵 USB フラッシュスティック上にあります。
- My Oracle Support - これは <http://support.oracle.com> にある Oracle サポートの Web サイトです。
- 物理メディアのリクエスト - My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。サポート Web サイト上の「問合せ」リンクを使用してください。

# ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>
Sun Server X4-4	<a href="http://www.oracle.com/goto/X4-4/docs">http://www.oracle.com/goto/X4-4/docs</a>
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle ILOM のバージョンについては、このドキュメントを参照してください。	<a href="http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs">http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs</a>
Oracle Hardware Management Pack。『プロダクトノート』にリストされている、サポートされている Oracle HMP のバージョンについては、このドキュメントを参照してください。	<a href="http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp">http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp</a>

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

## このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

## サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート: <http://support.oracle.com>
- トレーニング: <http://education.oracle.com>

### Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

## 寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Ray Angelo、Cynthia Chin-Lee、Mark McGothigan、Michael Bechler、Lisa Kuder。

寄稿者: Kenny Tung、Barry Wright、David Savard

## 変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2014年4月。初版。





# Sun Server X4-4 プロダクトノート

---

このドキュメントでは、Oracle の Sun Server X4-4 でサポートされているファームウェアとオペレーティングシステム、操作に関する重要な注意事項、および既知の問題に関する最新情報について説明します。

次の表に、説明するトピックをリストします。

確認	リンク
このリリースでの変更点。	10 ページの「このリリースでの変更点のサマリー」
サポートされているハードウェア。	10 ページの「サポートされているハードウェア」
サポートされているファームウェアのリビジョン。	13 ページの「サポートされているソフトウェアとファームウェア」
システムソフトウェアリリースについての情報。	13 ページの「システムソフトウェアリリースについての情報」
サポートされているオペレーティングシステム。	14 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
サポートされている Oracle サーバー管理ツール。	15 ページの「サーバー管理ツール」
既知の問題。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 17 ページの「ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題」</li><li>■ 19 ページの「Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する問題」</li><li>■ 21 ページの「Oracle Solaris の問題」</li><li>■ 27 ページの「Oracle VM の問題」</li><li>■ 31 ページの「Linux の問題」</li><li>■ 33 ページの「VMware ESXi の問題」</li></ul>

---

注- このドキュメントには、ドキュメントの発行時点でのサーバーの正確な情報が記載されています。

---

## このリリースでの変更点のサマリー

これは、初版の『Sun Server X4-4 プロダクトノート』です。

## サポートされているハードウェア

次のトピックでは、サーバーでサポートされているハードウェアについて説明します。

サポートされているコンポーネント	リンク
プロセッサ	<a href="#">10 ページの「サポートされている CPU」</a>
メモリー	<a href="#">10 ページの「サポートされているメモリー」</a>
ストレージドライブ	<a href="#">11 ページの「サポートされているストレージドライブ」</a>
PCIe カード	<a href="#">11 ページの「サポートされている PCIe カード」</a>

サーバーハードウェアの機能の追加情報については、『[Sun Server X4-4 設置ガイド](#)』の「[サーバーがサポートする部品](#)」を参照してください。

## サポートされている CPU

このサーバーは、2つまたは4つのいずれかの Intel Xeon E7-8895 V2 (15 コア、2.8 GHz、155W) CPU をサポートしています。

## サポートされているメモリー

ECC メモリーを含むレジスタ付き DDR3 DIMM 用の 4 CPU システムでは、最大 96 スロット (CPU ごとに 24 スロット) を使用できます。DIMM は、『[Sun Server X4-4 サービスマニュアル](#)』に記載されているルールに従って装着する必要があります。サポートされている DIMM を次の表に示します。

サポートされているメモリー
<ul style="list-style-type: none"><li>8 GB DDR3 LV RDIMM</li><li>16 GB DDR3 LV RDIMM</li><li>32 GB DDR3 LV LRDIMM</li></ul>

## サポートされているストレージドライブ

サーバーには 6 基の SAS/SATA 2.5 インチディスクベイが搭載されており、ハードディスクドライブ (HDD) および半導体ドライブ (SSD) を装着できます。次の表に、サポートされているストレージドライブの一覧を示します。

---

### サポートされているストレージドライブ

---

- 600 GB 10000 rpm SAS-2 HDD
  - 1.2 TB 10000 rpm SAS-2 HDD
  - 400 GB SATA3 SSD
- 

## サポートされている PCIe カード

Sun Server X4-4 での使用がサポートされている PCI Express (PCIe) カードは次のとおりです。下の表に示す取り付けルール (カードとスロット) は、出荷時にテスト済みの構成に基づいた推奨です。

次の制限に注意してください。

- システム内で Emulex バージョンと Qlogic バージョンの Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA を混在させることはできません。1 つのシステムで使用できるのは 1 つのベンダーのカードだけです。
- 同じ Sun Storage 16Gb Fibre Channel Universal HBA 上に FC SFP+ と FCoE SFP+ を混在させることはできません。
- ただし、システム内で単一ベンダーの Sun Storage 16Gb Fibre Channel Universal HBA (Qlogic または Emulex のいずれか) を混在させて、1 つに FC SFP+ を取り付け、もう 1 つに FCoE SFP+ を取り付けることができます。
  - Qlogic アダプタの場合: 7101676、7101680、7101678 FCoE  
-または-
  - Emulex アダプタの場合: 7101686、7101688 FCoE
- システム内で Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA と Sun Storage Tek 8 Gb FC PCIe HBA を混在させることはできません。
- システム内でデュアルポート 10 ギガビット Ethernet PCIe 2.0 銅/ファイバ SFP+ アダプタと Sun デュアルポート 10GBase-T PCIe 2.0 ロープロファイルアダプタ LP を混在させることはできません。

サポートされている PCIe カード

PCIe カードの 取り付け順序	PCIe カード	2 CPU システム での最大	スロット装着順序	4 CPU システム での最大	スロット装着順序
出荷時オプション	Sun Storage 6Gb SAS PCIe HBA、内蔵 (SG-SAS6-INT-Z)	1	スロット 2	1	スロット 2
出荷時オプション	Sun Storage 6Gb SAS PCIe RAID HBA、内蔵 (SG-SAS6-R-INT-Z)	1	スロット 2	1	スロット 2
1	Sun Flash Accelerator F80 PCIe カード (7107092)	4	スロット 6、4、5、3	6	スロット 10、7、6、3、8、5
2	Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA、Qlogic (順序: 1 番目 7101676、2 番目 7101680、3 番目 7101678)	2	スロット 6、4、5、3、1	4	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
3	Sun Storage 16 Gb Fibre Channel PCIe Universal HBA、Emulex (順序: 1 番目 7101686、2 番目 7101688)	2	スロット 6、4、5、3、1	4	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
4	Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA、Qlogic (SG-XPCIE2FC-QF8-N)	2	スロット 6、4、5、3、1	2	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
5	Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA、Emulex (SG-XPCIE2FC-EM8-N)	2	スロット 6、4、5、3、1	2	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
6	Sun Dual Port QDR InfiniBand ホストチャネルアダプタ、InfiniBand CX3 (7104074)	2	スロット 6、4、5、3、1	2	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
7	デュアルポート 10 ギガビット Ethernet PCIe 2.0 銅/ファイバ SFP+ (1109A-Z)	2	スロット 6、4、5、3、1	4	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
8	Sun Dual Port 10GBase-T PCIe 2.0 Low Profile アダプタ LP (7100488)	2	スロット 6、4、5、3、1	4	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1
9	Sun Storage 6Gb SAS PCIe HBA、外付け (SG-SAS6-EXT-Z)	2	スロット 6、4、5、3、1	2	スロット 11、8、6、4、10、7、5、3、9、1

## サポートされているソフトウェアとファームウェア

次のトピックで、Sun Server X4-4 でサポートされているコンポーネントについて説明します。

- 13 ページの「システムソフトウェアリリースについての情報」
- 13 ページの「ファームウェアのリリース履歴」
- 14 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
- 15 ページの「サーバー管理ツール」

## システムソフトウェアリリースについての情報

システムソフトウェアリリースは、サポートの維持、機能拡張の追加、または問題の修正のために利用できます。システムのリリースには、新バージョンのファームウェア (BIOS および SP/Oracle ILOM)、新しくリリースされたツールやドライバ、その他のパッケージコンポーネントに対するアップデートが含まれます。更新がリリースされると、変更点の詳細が、次のソースから入手できる最新の各ソフトウェアコンポーネントの ReadMe ファイルで示されます。

- Oracle System Assistant (「System Information」 ページの「Help」 ボタンをクリック)。
- My Oracle Support の最上位の ReadMe として、My Oracle Support からダウンロードする任意のサーバーソフトウェアパッケージに含まれています。ダウンロード手順については、35 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。
- MOS からダウンロードしたサーバーパッケージに同梱。

## ファームウェアのリリース履歴

サーバーファームウェアのバージョンは、既知の問題を修正するために必要に応じて更新されるため、サポートされるファームウェアのバージョンは時間とともに変わります。

---

注-最新のシステムソフトウェアリリースにアップグレードすることをお勧めします。これにより、システムでサポートされる最新のファームウェア、BIOS、およびドライバを入手できます。システムの最新ソフトウェアリリースをダウンロードするには、<http://support.oracle.com> にアクセスしてください。

---

次の表に、リリースされたサーバーファームウェアのバージョン一覧を示します。

システムソフトウェアリリース	Oracle ILOM SP ファームウェア	システム BIOS	FPGA
1.0	3.2.2.10 (r88248)	24.01.09.00	2.5

注-サーバーのシステムソフトウェアリリースの更新時には、リリースのすべてのコンポーネントが一度にインストールされます(ファームウェア、BIOS、FPGA)。このプロセスでは、システムの複数回の自動リブートが必要になります。

## サポートされているオペレーティングシステム

次の表に、Sun Server X4-4 でサポートされている、プラットフォームソフトウェアリリースごとのオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアの一覧を示します。

プラットフォームソフトウェアリリース	サポートされているオペレーティングシステム
1.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Oracle Solaris 11.1 SRU12 (インストール済みのシステムオプションとして用意されています)</li> <li>■ Oracle Linux 6.5 for x86 (64 ビット)。Oracle Unbreakable Enterprise Kernel (UEK3) for Linux および Red Hat Compatible Kernel (インストール済みのシステムオプションとして用意されています)</li> <li>■ Oracle Linux 5.10 for x86 (64 ビット)。Oracle Unbreakable Enterprise Kernel (UEK2) for Linux および Red Hat Compatible Kernel</li> <li>■ Oracle VM Server 3.2.7 (インストール済みのシステムオプションとして用意されています)</li> <li>■ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP3</li> <li>■ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.10、6.5</li> <li>■ VMware ESXi 5.5</li> <li>■ Windows Server 2008 R2 SP1、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2</li> </ul> <p>注-Oracle System Assistant による OS インストール機能には、上にリストしたサポートされる最新のオペレーティングシステムのサポートが出荷時に組み込まれていない場合があります。最新の使用可能な Oracle System Assistant ソフトウェアがあるかどうかを確認するには、Oracle System Assistant の「Get Updates」機能を使用してください。</p>

Sun Server X4-4 でサポートされている最新のオペレーティングシステムは、<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-4#tab:Operating-Systems> で確認できます。

このサイトで、「x86 System Options and Downloads」のタブをクリックしたあと、Sun Server X4-4 のリンクをクリックします。Sun Server X4-4 のページで、「Operating Systems」のタブをクリックします。

## サーバー管理ツール

サーバー向けに単一のシステム管理ツールが3セット存在します。

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) (初期の Sun Server X4-4 リリースではバージョン 3.2.2.10 がサポートされています)。詳細は、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.2X のドキュメントライブラリを参照してください。
- Oracle System Assistant (初期の Sun Server X4-4 リリースではバージョン 1.2.1 がサポートされています)。詳細は、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』(<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) で Oracle System Assistant を使用してサーバーを設定する手順を参照してください。
- Oracle Hardware Management Pack (初期の Sun Server X4-4 リリースではバージョン 2.2.8 がサポートされています)。詳細については、<http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs> にある Oracle Hardware Management Pack のドキュメントライブラリを参照してください。

さらに、データセンターで複数のシステムを管理するために、次のソフトウェアを使用できます。

- Oracle Enterprise Manager Ops Center (初期の Sun Server X4-4 リリースではバージョン 12c がサポートされています)。詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html> で製品情報のページを参照してください。

使用可能なシステム管理ツールの概要については、<http://www.oracle.com/goto/system-management> にある情報を参照してください。





# ハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題

---

このセクションでは、Sun Server X4-4 の重要な注意点および要件について説明します。

次の表に、サーバーのハードウェア、ファームウェア、および BIOS の問題の一覧を示します。

問題へのリンク	回避方法
17 ページの「電源/OK LED がブート後に点滅から点灯に変化しない (17854057)」	いいえ
17 ページの「システムの起動後に接続したブート可能な USB デバイスが、ブートデバイスとして認識されない場合がある (17961398)」	はい

## 電源/OK LED がブート後に点滅から点灯に変化しない (17854057)

システムブート中、主電源/OK LED は、オペレーティングシステムのブートが開始されると常時点滅から点灯に変化します。システムが UEFI ブートモード用に構成されていて、UEFI をサポートするオペレーティングシステムのブートを開始すると、電源/OK LED は常時点滅モードのままになり、点灯には変化しません。

現時点では回避方法はありません。このシステムは正常に機能しており、電源/OK LED の点滅状態は無視できます。

## システムの起動後に接続したブート可能な **USB** デバイスが、ブートデバイスとして認識されない場合がある (17961398)

ブート可能な USB デバイスからブートを試みても、システム起動前にサーバーに接続していない場合は、システムがデバイスをブートデバイスとして認識しないことがあります。

### 回避方法

1. USB ブート可能デバイスを接続します。
2. システムの電源を入れるか、電源を再投入します。
3. プロンプトが表示されたら F8 キーを押して、ブートメニューを表示します。
4. USB ブートデバイスを選択します。

# Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) に関する問題

---

このセクションの各トピックでは、Sun Server X4-4 における Oracle ILOM の問題について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題の一覧です。

問題へのリンク	回避方法
19 ページの「診断の実行中には、その他のサーバー関連のアクションを実行しない (17563508)」	適用外
19 ページの「システムの AC 電源の再投入または SP のリセット後のメモリー不足状態メッセージ (17622795)」	適用外

## 診断の実行中には、その他のサーバー関連のアクションを実行しない (17563508)

Oracle ILOM から (Web ブラウザのユーザーインターフェースから「Host Management」 > 「Diagnostics」で) UEFI 診断を実行しているときは、「Run diagnostics on boot」をリセットして無効に戻すまでは、ファームウェアの更新やユーザーによる電源切断などのその他のサーバー関連のアクションは試みないでください。これを行うと、診断テスト中にファームウェアが破損する可能性があります。

## システムの AC 電源の再投入または SP のリセット後のメモリー不足状態メッセージ (17622795)

システムの AC 電源の再投入、またはサービスプロセッサ (SP) の意図的なりセット (たとえば、ファームウェアの更新中は、サーバーに電源が再投入されたり、更新プロセスの一環として自動的にリセットされることがあります) の間、まれに、SP に「メモリー不足状態のためシステムが再起動されました」というエラーメッセージが表示されることがあります。

たとえば、シリアルコンソールから次の出力が表示されることがあります。

```
Running BIOS version check...
Stop updating /conf/progparts.version
Running Platform Diagnostics: platform_diags.sh.
```

```
*****  
System restarted due to Out-Of-Memory condition.  
*****
```

ORACLESP-HW-X4-4\_20645 login:

システムの電源を意図的に再投入した場合、またはその SP を意図的にリセットした場合、「メモリー不足状態」メッセージは無視できます。

# Oracle Solaris の問題

---

このセクションでは、Sun Server X4-4 でサポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステムに関する問題について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題の一覧です。

問題へのリンク	回避方法
21 ページの「UEFI ブートモードでの miniroot の pxe ブートが極端に遅い (17458093)」	いいえ
22 ページの「Desktop Package を含む Solaris 11.1 は Oracle ILOM の特定のオプションを使用して電源をオフにできない (16816951)」	はい
23 ページの「Oracle Solaris 11.1 を Linux iSCSI ターゲットにインストールできない (16274469)」	いいえ
23 ページの「Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Emulex) ポートがオフラインになる (17331148)」	はい
24 ページの「Solaris クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して ISO イメージをリダイレクトすると、イメージのマウントに失敗する (18285100)」	はい
24 ページの「Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Qlogic) が取り付けられたサーバーで、Jumpstart を使用した SAN ブートが失敗する (18237680)」	はい
25 ページの「USB 1.0/1.1 デバイスを接続すると、Oracle Solaris が fault.io.usb.not_acc を生成する (17785011)」	いいえ

## UEFI ブートモードでの miniroot の pxe ブートが極端に遅い (17458093)

UEFI ブートモードの BIOS で構成されたサーバーへの Oracle Solaris のネットワークインストールを実行すると、インストールが始まるまでのブートアーカイブのロードに時間がかかります (約 40-50 分)。

たとえば、下に示すプロセスは、2 回目の「done」が表示されるまでに 40-45 分かかることがあります。

```
Welcome to GRUB!
5 4 3 2 1 0 Booting 'Oracle Solaris 11.1.11.3.0'
Loading cd0/platform/i86pc/kernel/amd64/unix: 0%...66%...done.
Loading cd0/platform/i86pc/amd64/boot_archive: 0%...1%...3%...5%...7%...9%...
11%...12%...14%...16%...18%...20%...22%...24%...25%...27%...29%...30%...32%...
34%...36%...38%...40%...42%...43%...45%...47%...49%...51%...53%...54%...56%...
58%...60%...62%...64%...66%...67%...69%...71%...73%...75%...77%...79%...80%...
82%...84%...85%...87%...89%...91%...93%...95%...97%...99%...done.
```

この遅さは、UEFI モードでのネットワークインストールに限定されます。通常は回避方法は不要であり、プロセスはいずれは完了します。ただし、オペレーティングシステムのインストール時間を短縮する必要がある場合は、ISO イメージ、USB イメージ、または CD-ROM/DVD の使用などの別の方法を使用して、オペレーティングシステムをインストールしてください。

## Desktop Package を含む Solaris 11.1 は Oracle ILOM の特定のオプションを使用して電源をオフにできない (16816951)

Desktop Package を含む Oracle Solaris 11.1 を実行中のサーバーの場合、次の Oracle ILOM 電源切断オプションはサーバーの電源を切断しません。

- Oracle ILOM の Web インタフェースからサーバーの正常なシャットダウンを実行するとき。
- Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) から `stop -f /SYS` コマンドを使用してサーバーの強制的なシャットダウンを実行するとき。

その他の電源切断オプションは正常に機能します。

### 回避方法

サーバーの電源切断に Oracle ILOM の Web インタフェースまたは CLI のどちらを使用するかに応じて、Oracle Solaris を実行中のサーバーで次のいずれかの回避方法を実行してください。

電源切断に **Oracle ILOM CLI** を使用するには、まず、**Oracle Solaris** を実行中のサーバーで次のことを実行します。

1. `/usr/share/dbus-1/services/gnome-power-manager.service` で、**--verbose** を `Exec=/usr/bin/gnome-power-manager` の行に追加します。  
編集した行は次のようになります。  
`Exec=/usr/bin/gnome-power-manager --verbose`

電源切断に **Oracle ILOM** の **Web** インタフェースを使用するには、まず、**Oracle Solaris** を実行中のサーバーで次のことを実行します。

1. GNOME パネルのメニューリストから「System」>「Preferences」>「Startup Applications」を選択します。
2. 「Power Manager」>「Edit」を選択します。
3. 次の行に **--verbose** を追加します: `gnome-power-manager`  
編集した行は次のようになります。  
`gnome-power-manager --verbose`

---

注 - `gnome-power-manager` デーモンが現在実行中の場合は、コマンド行から **kill gnome-power-manager** と入力して停止します。

---

## Oracle Solaris 11.1 を Linux iSCSI ターゲットにインストールできない (16274469)

Sun Server X4-4 に Oracle Solaris 11.1 OS をレガシー iSCSI モードでインストールするときは、OS を Linux iSCSI ターゲットにインストールしないでください。代わりに、インストールには Solaris または Windows iSCSI ターゲットを使用してください。

## Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Emulex) ポートがオフラインになる (17331148)

めったにありませんが、Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Emulex) が取り付けられた Sun Server X4-4 は、ブート中に HBA ポートがオフラインになることがあります。 `fmadm faulty` コマンドを使用して Oracle Solaris 障害管理ログをチェックする場合は、次のようなエラーを確認してください。

```
# fmadm faulty
-----
TIME                EVENT-ID                MSG-ID                SEVERITY
-----
Oct 12 23:42:57 1786b6a2-57d7-cf84-ae3b-fc08de6effd8  PCIEX-8000-0A  Critical

Host      : testserver16
Platform  : sun4v-platform  Chassis_id :
Product_sn :

Fault class : fault.io.pciex.device-interr
Affects     : dev:///pci@340/pci@1/pci@0/pci@2/SUNW,emlxs@0,1
              faulted and taken out of service
FRU        : "IOU0-PCIE2"
(hc:///product-id=sun4v-platform:server-id=scxx043cto:chassis-id=AK00120548/chassis=0/cpupboard=0/hostbridge=1/pciexrc=1/pciexbus=1/pciexdev=0/pciexfn=0/pciexbus=2/pciexdev=2/pciexfn=0/pciexbus=115/pciexdev=0)
```

not present

Description : A problem was detected for a PCIEX device.

Response : One or more device instances may be disabled

Impact : Loss of services provided by the device instances associated with this fault

Action : Use 'fmadm faulty' to provide a more detailed view of this event. Please refer to the associated reference document at <http://sun.com/msg/PCIEX-8000-0A> for the latest service procedures and policies regarding this diagnosis.

「PCIEX-8000-0/A」という参照リンクが、これが PCIe デバイスに関する問題であることを裏付けています。

#### 回避方法

Oracle Solaris 11.1 SRU16.5 をインストールして、Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Emulex) 用の更新済みドライバを入手してください。

## Solaris クライアントで Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用して ISO イメージをリダイレクトすると、イメージのマウントに失敗する (18285100)

リモートサーバーへの ISO イメージのリダイレクトに、Solaris クライアントから Oracle ILOM リモートコンソールプラスを使用すると、リダイレクトされたイメージがサーバーにマウントされません。これにより、サーバーは ISO イメージにアクセスできなくなります。

#### 回避方法

ISO イメージをリダイレクトするには、Linux クライアントまたは Windows 7 クライアントを使用して Oracle ILOM リモートコンソールプラスを実行してください。

## Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Qlogic) が取り付けられたサーバーで、Jumpstart を使用した SAN ブートが失敗する (18237680)

Oracle Solaris 11.1 OS および Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Qlogic) を含むサーバーで、Jumpstart を使用した UEFI SAN ブートを試みると、次のエラーが表示されることがあります。



```
>>Checking Media Presence.....
>>Media Present.....
Downloading NBP File...

Succeed to download NBP file...
Welcome to GRUB!

Oracle Solaris Network Boot
Please wait while the network boot configuration file is located...
No GRUB2 network configuration file could be located on the TFTP server!

Press 'r'<Enter> to reboot or <Enter> to enter GRUB
.....
```

#### 回避方法

Sun StorageTek 8 Gb FC PCIe HBA (Qlogic) のオプション ROM を無効にしてください。

## USB 1.0/1.1 デバイスを接続すると、Oracle Solaris が fault.io.usb.not\_acc を生成する (17785011)

まれに、USB 1.0/1.1 デバイス (キーボード、マウス、KVM など) をシステムに接続すると、Oracle Solaris が fault.io.usb.not\_acc エラーを生成します。また、システム保守要求障害インジケータが点灯することがあります。

この問題の結果としての既知の機能上の影響はなく、この障害は無視できます。



# Oracle VM の問題

---

このセクションでは、Sun Server X4-4 でサポートされている Oracle VM ソフトウェアに関する問題について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題の一覧です。

問題へのリンク	回避方法
<a href="#">27 ページの「dhclient コマンドでシステムがパニックを起こす (16596993)」</a>	はい
<a href="#">28 ページの「ethtool が速度とデュプレックスを不明として表示する (16563881)」</a>	はい
<a href="#">28 ページの「大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM 3.2.7 サーバーをインストールしたあとのエラー (16557272)」</a>	はい

## dhclient コマンドでシステムがパニックを起こす (16596993)

Oracle VM 3.2.7 が実行されている、多数の PCIe カードが取り付けられたシステムで dhclient を使用すると、システムがパニックを起こす可能性があります。システム構成によっては、Oracle VM がすべてのオプションカードに十分なリソースを割り当てない場合があります。これが起こると、オプションカードドライバは不十分なリソースでロードを試み、結果としてシステムパニックが発生することがあります。

### 回避方法

grub.conf ファイルを編集して、次のカーネルブートパラメータを追加してください。

```
extra_guest_irqs=64,2048 nr_irqs=2048
```

## ethtool が速度とデュプレックスを不明として表示する (16563881)

Oracle VM 3.2.7 サーバーで ethtool コマンドを使用すると、「Speed」と「Duplex」の設定が「Unknown!」ステータスとして表示されます。例:

```
# ethtool eth0
Settings for eth0:
    Supported ports: [ TP ]
    Supported link modes:   10baseT/Half 10baseT/Full
                          100baseT/Half 100baseT/Full
                          1000baseT/Full
    Supports auto-negotiation: Yes
    Advertised link modes:  10baseT/Half 10baseT/Full
                          100baseT/Half 100baseT/Full
                          1000baseT/Full
    Advertised pause frame use: Symmetric
    Advertised auto-negotiation: Yes
    Speed: Unknown!
    Duplex: Unknown! (255)
    Port: Twisted Pair
    PHYAD: 1
    Transceiver: internal
    Auto-negotiation: on
    MDI-X: Unknown
    Supports Wake-on: pumbg
    Wake-on: d
    Current message level: 0x00000007 (7)
    Link detected: no
```

この問題は、適切なステータスの報告に使用できる割り込みリソースが不十分なことが原因です。

### 回避方法

grub.conf ファイルを編集して、次のカーネルブートパラメータを追加してください。

```
extra_guest_irqs=64,2048 nr_irqs=2048
```

## 大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM 3.2.7 サーバーをインストールしたあとのエラー (16557272)

場合によっては、大容量メモリーのあるシステムに Oracle VM を正しくインストールして起動するためには、特殊な構成が必要になります。そうでないと、インストール後の起動時に次のエラーを受信することがあります。

```
kernel panic -not syncing: Out of memory and no killable processes
```

Oracle VM 3.2.7 を ISO イメージから、または Oracle System Assistant を使用してインストールする場合は、`dom0_mem` パラメータを正しく設定する必要があります。Oracle VM ソフトウェアを PXE ブートまたはその他のカスタマイズされた環境からインストールし、大容量メモリーシステムがある場合は、`dom0_mem` 設定の再計算が必要になることがあります。

#### 回避方法

次の式を使用して、`dom0_mem` 設定を再計算します。

```
dom0_mem = 502 + int(physical_mem * 0.0205)
```

たとえば、システムに 128G バイトのメモリーがある場合は、`dom0_mem` を 3188M バイトに増やす必要があります。

```
dom0_mem=3188M
```

`dom0_mem` 設定は、`grub.conf` ファイル内で、またはインストール中に `grub` メニューでブートプロセスを中断し、そこで編集することで更新できます。

`dom0_mem` 設定の詳細については、Oracle VM Server のインストールに関するドキュメントを参照してください。

[http://docs.oracle.com/cd/E35328\\_01/E35330/html/vmiug-server-dom0-memory.html](http://docs.oracle.com/cd/E35328_01/E35330/html/vmiug-server-dom0-memory.html)



# Linux の問題

---

このセクションでは、Sun Server X4-4 でサポートされている Linux オペレーティングシステムに関する問題について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題の一覧です。

問題へのリンク	回避方法
<a href="#">31 ページの「Intel_Idle ドライバでの C ステートのパフォーマンスの問題 (16873953)」</a>	はい

## Intel\_Idle ドライバでの C ステートのパフォーマンスの問題 (16873953)

Oracle Linux 6.5 (互換バージョンのみ) または Oracle Linux 5.10 (互換バージョンおよび UEK2) が実行されているシステムでは、システムがアイドル状態 (スリープ状態) の場合、システム CPU を C1 ステートより深くすることができません。これは、C ステートのスレッドのウェイクアップパフォーマンス待ち時間に現れることがあります。

### 回避方法

/etc/grub.conf ファイルを編集して、次のカーネルパラメータを追加してください。

```
intel_idle.max_cstate=0
```

これにより、デフォルトの intel\_idle ドライバが無効になり、カーネルに acpi\_idle の使用が強制されます。

この問題は Oracle Linux 6.5 UEK3 では存在しません。





# VMware ESXi の問題

---

このセクションでは、Sun Server X4-4 でサポートされている VMware ESXi ソフトウェアに関する問題について説明します。次の表は、このセクションで取り扱う問題の一覧です。

問題へのリンク	回避方法
33 ページの「VMware ESXi 5.5 が 4G バイトを超える MMIO リージョンをサポートしない (16480679)」	はい
34 ページの「VMware ESXi 5.5 で PCIe カードの割り込みが不足する (16494653)」	いいえ

## VMware ESXi 5.5 が 4G バイトを超える MMIO リージョンをサポートしない (16480679)

Sun Server X4-4 はデフォルトで BIOS を 64 ビット MMIO (Memory Mapped I/O) に設定します。これにより、追加の PCIe メモリーのアドレス空間を、オプション ROM を含む PCIe カード用の標準の 32 ビット 4G バイトを超えてマップできます。ただし、VMware ESXi は、標準の 4G バイトを超える MMIO 領域と互換性がありません。この問題により、ESXi で一部の PCIe カードが適切に機能しない可能性があります。

### 回避方法

可能性のある回避方法として、サーバーの BIOS 設定ユーティリティーを使用して 64 ビット MMIO を無効にします (「IO」 > 「PCIe Subsystem Settings」 > 「PCI 64-bit Resources Allocation」メニュー)。この回避方法には制限があります。オプションカードの組み合わせによっては、システムに、システムが 32 ビットのアドレス空間内に割当可能な領域よりも多くの MMIO 領域が必要になります。その場合、MMIO アドレス空間の不足のために割り当てることができなかったオプションカードは、使用不可になります。

詳細については、この問題についての VMware のナレッジベース記事を参照してください。

[http://kb.vmware.com/  
selfservice/microsites/  
search.do?language=en\\_US&cmd=displayKC&externalId=2050443](http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2050443)

## VMware ESXi 5.5 で PCIe カードの割り込みが不足する (16494653)

ある特定の構成では、VMware ESXi でデバイス (これにはストレージやネットワークが含まれる場合があります) の割り込みが不足することがあります。

詳細については、VMware の『構成の上限』の、ESXi 5.5 のホストの上限についてのドキュメントを参照してください。

<http://www.vmware.com/pdf/vsphere5/r55/vsphere-55-configuration-maximums.pdf>

# サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

---

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアの更新について学習します。	<a href="#">35 ページの「ファームウェアとソフトウェアの更新」</a>
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプションについて学びます。	<a href="#">36 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」</a>
使用可能なファームウェアとソフトウェアパッケージを確認します。	<a href="#">36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」</a>
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストにより、ファームウェアおよびソフトウェアパッケージにアクセスします。	<a href="#">38 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」</a>
ファームウェアとソフトウェアの更新をインストールします。	<a href="#">42 ページの「更新のインストール」</a>

---

## ファームウェアとソフトウェアの更新

サーバー用のハードウェアドライバやツールなどのファームウェアおよびソフトウェアは、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード（パッチ）です。これらはすべてまとめてテストされています。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点が説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になりしだい、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

## ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用するサーバー用の最新ファームウェアおよびソフトウェアセットを入手します。

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストールされている、Oracle サーバー用の新しいオプションであり、サーバーのファームウェアおよびソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできるようにします。

Oracle System Assistant の使用の詳細については、『[Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド \(http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs\)](http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)』を参照してください。

- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームウェアおよびソフトウェアは、My Oracle Support Web サイトから入手できます。

My Oracle Support Web サイトで入手可能なものの詳細については、<http://support.oracle.com> を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法は、[38 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」](#)を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。

詳細は、[39 ページの「物理メディアのリクエスト」](#)を参照してください。

## 入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support では、ダウンロードは製品ファミリ、製品、およびバージョン別にグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。この製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリ向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらも、物理メディアのリクエスト (PMR) を行なって依頼できます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
Sun Server X4-4 SW <i>version</i> – Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
Sun Server X4-4 SW <i>version</i> – OS Pack	OS Pack は、サポートされているオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できません。各 OS Pack には、その OS バージョン用のツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージすべてが含まれます。  ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。  Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティを更新する必要があるとき。
Sun Server X4-4 SW <i>version</i> – All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。  このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有のソフトウェアの組み合わせを更新する必要があるとき。
Sun Server X4-4 SW <i>version</i> – Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージ。	Oracle VTS 診断イメージが必要なとき。
Sun Server X4-4 SW <i>version</i> – Oracle System Assistant	Oracle System Assistant 回復および ISO 更新イメージ。	Oracle System Assistant を手動で回復および更新する必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

## ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルのダウンロードまたはリクエストの手順を説明します。

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理者ガイド (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)』を参照してください。

更新されたファームウェアおよびソフトウェアを入手する方法は、ほかにも My Oracle Support を使用する方法と、物理メディアをリクエストする方法の2つがあります。参照先:

- 38 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」
- 39 ページの「物理メディアのリクエスト」

### ▼ My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする

- 1 次の Web サイトへ移動します:<http://support.oracle.com>
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。  
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー (拡張)」をクリックします。  
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。  
あるいは、製品名 (たとえば、Sun Server X4-4) の全体または一部を、一致するものが表示されるまで入力します。
- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
- 7 「検索」をクリックします。  
ダウンロードできるパッチが一覧表示されます。

入手可能なダウンロードの説明については、36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

- 8 ダウンロードするパッチを選択するには、そのパッチをクリックします (**Shift** キーを使用すると、複数のパッチを選択できます)。アクションパネルがポップアップ表示されます。ポップアップパネルには、「計画に追加」および「ダウンロード」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するドロップダウンボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
- 9 パッチをダウンロードするには、ポップアップアクションパネルの「ダウンロード」をクリックします。「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。パッチファイルがダウンロードされます。

## 物理メディアのリクエスト

手続き上、Oracle Web サイトからダウンロードできない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) によって最新のソフトウェアリリースを入手できます。

物理メディアのリクエストを行うための大まかなタスクに従ってください。

- [39 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」](#)
- [40 ページの「物理メディアのリクエスト \(オンライン\)」](#)
- [41 ページの「物理メディアのリクエスト \(電話\)」](#)

## 物理メディアのリクエストのための情報の収集

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ (パッチ) の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - [38 ページの「My Oracle Support を使用してファームウェアとソフトウェアをダウンロードする」](#) の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード (パッチ) を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。

- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」にある情報を使って、目的のパッケージを判断してから、最新のソフトウェアリリース用のこれらのパッケージをリクエストしてください。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

#### 関連情報

- 40 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」
- 41 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

## ▼ 物理メディアのリクエスト (オンライン)

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上隅にある「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
  - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。  
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
  - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、「**Sun Server X4-4** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**」と入力します。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
物理ソフトウェアメディアの送付リクエストですか？	はい
どの製品ラインに関するメディアのリクエストですか？	Sun 製品
パッチのダウンロードに必要なパスワードの確認ですか？	いいえ
CD/DVD でのパッチのリクエストですか？	はい



質問	回答
パッチを CD や DVD でリクエストする場合、パッチの番号、OS とプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
物理メディア送付をリクエストしている製品の名前とバージョンをリストしてください。	製品名: Sun Server X4-4 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
リクエストするメディアの OS とプラットフォームをお知らせください。	OS 固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここで OS を指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「汎用」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	いいえ

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。  
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「送信」をクリックします。

#### 参考 関連情報

- 39 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」
- 41 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

## ▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。  
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Server X4-4** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。
  - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。

- ソフトウェアのリリース情報にアクセスできない場合は、Sun Server X4-4 の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

#### 参考 関連情報

- 39 ページの「物理メディアのリクエストのための情報の収集」
- 40 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」

## 更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- 42 ページの「ファームウェアのインストール」
- 43 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」

### ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller では、Oracle から自動的に最新のファームウェアをダウンロードするか、Enterprise Controller 内にファームウェアを手動でロードできます。どちらの場合も、Ops Center でファームウェアを1つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシにインストールできます。

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、最新のファームウェアを Oracle からダウンロードしてインストールできます。

詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)』を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用すると、システム内部のファームウェアを更新できます。

詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。

- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。

詳細は、<http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> で Oracle Lights Out Manager (ILOM) ドキュメントライブラリのサポートされているバージョンのドキュメントを参照してください。

## ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle System Assistant**

詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)』を参照してください。

- JumpStart、KickStart、サードパーティーのツールなどの、その他の配備メカニズム。

詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

